

令和4年度愛媛県行政評価システム外部評価委員会結果（中間取りまとめ）※意見・質問等含む

【分類】 A：事業内容・実施手法に関する御意見等 B：部局間連携に関する御意見等 C：成果指標・活動指標に関する御意見等 D：その他の御意見等

長 期 計 画		予 算 施 策	事 務 事 業	所 管 部 局 課 室 (R4年度所管)	ヒアリング (R4. 8. 23・24) に おける委員意見・質問等				委 員 会 か ら の 提 案						合 計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																											
					分 類				計	事業の方向性		分 類				分 類				合計																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
					A	B	C	D		見 直 し	継 続	A	B	C	D	計	A	B	C		D																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
政 策	施 策																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									

令和4年度 愛媛県行政評価システム外部評価委員会 委員意見・質問等一覧

《長期計画》

基 本 政 策	生き活きとした愛顔あふれる「えひめ」づくり
政 策	交通ネットワークの整備
施 策	広域・高速交通ネットワークの整備

予 算 施 策	航空ネットワークの整備・充実
事 務 事 業	松山空港エアポートセールス強化事業費
所管部局 課室名 (R4年度所管)	観光スポーツ文化部 観光国際課航空政策室

【分類】 A：事業内容・実施手法に関する御意見等 B：部局間連携に関する御意見等
C：成果指標・活動指標に関する御意見等 D：その他の御意見等

番号	分類	ヒアリング (R4.8.24) における 委員意見・質問等	部 局 回 答 (対 応)
1	A	エアポートセールス専門スタッフの活動内容はどのようなものか。	エアポートセールス専門スタッフの役割は、大きく次の3点である。 ・空港利用者に対し様々な魅力についてSNSを活用し情報発信 ・専門スタッフの人的ネットワークを活用した関係機関訪問（生の情報を仕入れる） ・市町との連携（就航に向けた事業活動に取り組むため）
2	A	飛行機に乗りたい人がどのくらいいるか調査したことはあるか。	問に対する直接的な回答とはならないかもしれないが、令和3年9月にインターネットを利用したアンケートを実施し、コロナ禍によるニーズの変化について調査を行った。その結果は次のとおり。 ・海外旅行に行ったことのない方は、全国平均より低位 ・今後は旅行をしないという方は全体の25%、一方で、状況が改善すれば行きたいと考えている方は20% アンケート調査結果を踏まえて、 ・ニーズをもう少し掘り下げた利用促進を図っていききたい ・若者向け、高校生の修学旅行について、どんな修学旅行に行きたいかコンテストなども実施（県内高校生対象） ・LCCの価格は安価であり、若者需要を期待し誘致を進めていきたい
3	A	エアポートセールス専門スタッフは国際線の営業も行っているのか。	コロナ禍でもあり、直近は着手できていない。
4	A	エアポートセールス専門スタッフの経歴、任期はどうか。	元航空会社勤務されていた方で、現在も航空会社に人的ネットワークを保有している。また任期は1年ごとの更新となっている。
5	A	松山空港に民営化の話はあるか。	国が主導し、意向確認しているところであり、民営化のメリット・デメリットを情報収集しているところ。仮に民営化されれば、企業体が営業活動することになるが、現在は、営業部門がなく、十分な営業活動ができていないことから、専門スタッフで対応している。
6	A	航空会社は共同運航などのコストダウンの動きがあるなかで、売上補填により利用者を直接的に増やすのとセールスサポートの部分とで、県としての予算の配分や重点ポイントはどうか。	四国には新幹線がないので、比較的高単価でも搭乗してもらえるビジネス路線はある程度収益が上がっている。観光路線は、オフシーズンがあるので、協議会として底上げを図っている。国際線は観光メインであり、インバウンドが回復するまではちょっと厳しい状況が続くが、コロナ後の安定運航に繋がるまでの期間はより支援を強化していく。
7	A	旅費が260万円予算計上されているが、妥当性はどうか。	旅費の内訳は、それぞれの路線に関して3回/年の訪問、県内日帰り20回/年の経費を計上している。今後も出張の内容を吟味し成果が上がるよう取り組んでいく。

【分類】 A：事業内容・実施手法に関する御意見等 B：部局間連携に関する御意見等
C：成果指標・活動指標に関する御意見等 D：その他の御意見等

番号	分類	ヒアリング（R4. 8. 24）における 委員意見・質問等	部 局 回 答 （ 対 応 ）
8	A	エアポートセールス専門スタッフは松山在住か。 就航先の営業活動に意味はあるのか。決定権は本社にあるので、本社に行く方がよいのではないか。 エアポートセールス専門スタッフ1人で行くのか。	松山在住の方である。 御指摘の側面もあるが、双方向の移動も重要であると考えている。どの路線においても、愛媛からの移動の方が利用者が少ないのが現状であり、航空会社だけでなく、訪問先の県、観光団体、商工会議所を訪問し、双方向の移動促進に向けたプロモーション、協議を行っている。 訪問地の行政機関に伺う際には、職員も同行する場合があるが、営業活動はできるだけ専門スタッフだけで行くようお願いしている。

令和4年度 愛媛県行政評価システム外部評価委員会 委員意見・質問等一覧

《長期計画》

基 本 政 策	活き活きとした愛顔あふれる「えひめ」づくり
政 策	交通ネットワークの整備
施 策	広域・高速交通ネットワークの整備

予 算 施 策	多様な交通体系の整備・充実
事 務 事 業	四国新幹線導入促進事業費
所管部局 課室名（R4年度所管）	企画振興部 地域政策課交通政策室

【分類】 A：事業内容・実施手法に関する御意見等 B：部局間連携に関する御意見等
C：成果指標・活動指標に関する御意見等 D：その他の御意見等

番号	分類	ヒアリング（R4.8.24）における 委員意見・質問等	部 局 回 答 （ 対 応 ）
1	C	＜予算施策に関する意見＞ 施策の評価（成果指標A・Bの評価）には、コロナ禍の影響を記載すべきではないか。	
2	A	若者向けデジタルコンテンツについて世間の反応はどうか。	昨年度はオンラインライブイベントを開催し、常時1千人程度の視聴があった。現在もアーカイブとして視聴可能であり、1万回以上視聴されている。
3	A	国への要望時には県民の要望書等は求められるのか。（国の評価項目にあるか）	要望書等については、国の（事業等の採択）要件としてはないが、要望時には県民や四国の声を届けていくことは重要と考えている。
4	A	デジタルコンテンツ（動画）の視聴数を増やしたいのであれば、もう少し短く作成した方がよい。また、デジタルコンテンツよりも、ユーチューブの広告でPRする方がより視聴数が増えるのではとも考えるので、提案させてもらってもいいかもしれない。	
5	D	松山空港利用者300万人のうち、100万人は伊丹便の利用であり、新幹線が整備されれば大阪までの旅程が空路と鉄路で競合することになり、空路（伊丹便）の運賃の低下、利便性の向上などが見込める。	
6	C	成果指標については、イベントの開催回数ではなく、活動により新幹線整備による利便性向上の周知が機運の醸成がどの程度できたかを指標とするべきである。	
7	A	どういった層をターゲットに情報発信していくのか、具体的に検討して施策を展開してもらいたい。	
8	A	PRイベントの実施については、どこかに委託しているのか。 業務委託の評価にあたっては、定性的な成果があれば良いと考える。	南海放送に委託している。

令和4年度 愛媛県行政評価システム外部評価委員会 委員意見・質問等一覧

《長期計画》

基 本 政 策	輝く愛顔あふれる「えひめ」づくり
政 策	地域で取り組む子育て・子育て支援
施 策	安心して生み育てることができる環境づくり

予 算 施 策	地域全体での子育て支援体制の確立と充実
事 務 事 業	えひめこどもの城魅力向上推進事業費
所管部局 課室名 (R4年度所管)	保健福祉部 子育て支援課

【分類】 A：事業内容・実施手法に関する御意見等 B：部局間連携に関する御意見等
C：成果指標・活動指標に関する御意見等 D：その他の御意見等

番号	分類	ヒアリング (R4. 8. 24) における 委 員 意 見・質 問 等	部 局 回 答 (対 応)
1	C	＜予算施策に関する質問＞ 成果指標Aが「地域子育て支援拠点事業施設数」となっているが、成果指標としては、「施設利用者数」が必要な視点ではないか。	施設はいろいろな利用方法があるため、一定の条件で数が拾えないかもしれない。
2	C	成果指標が、「ジップラインを知っているか」や、「ジップラインで遊びたいか」よりも、こどもの城のHPのアクセス数や配信動画の閲覧数等を成果指標にしているか。	ジップラインは魅力向上のために整備したものであり、できたばかりということもあって県民への定着も図りたいため、この指標としている。 今後の事業展開によって指標の変更も検討していきたい。
3	C	成果指標を「ジップラインの利用者数」にしてはどうか。または「こどもの城にいききたい、遊びたいと思う人」の割合にしてはどうか。	
4	A	若年層のこどもの城への交通アクセスに対して対策をしているか。	今後の検討事項と認識している。
5	C	PR動画をどのくらい見ているのか、SNSのフォロワー数がどのくらい増えたか等の数字を伸ばすことが、この事業の成果となると思われる。どういうマーケティングが一番効果があるか分析する点でも、そのような数字を拾ってはどうか。	

令和4年度 愛媛県行政評価システム外部評価委員会 委員意見・質問等一覧

＜長期計画＞

基 本 政 策	輝く愛顔あふれる「えひめ」づくり
政 策	地域で取り組む子育て・子育て支援
施 策	安心して生み育てることができる環境づくり

予 算 施 策	地域全体での子育て支援体制の確立と充実
事 務 事 業	子どもの愛顔応援ファンド活用事業費
所管部局 課室名（R4年度所管）	保健福祉部 子育て支援課

【分類】 A：事業内容・実施手法に関する御意見等 B：部局間連携に関する御意見等
C：成果指標・活動指標に関する御意見等 D：その他の御意見等

番号	分類	ヒアリング（R4.8.24）における 委員意見・質問等	部 局 回 答 （ 対 応 ）
1	A	「ファンド」というのは、子ども子育て応援基金を指しているのか。	基金だけでなく、物資やボランティア等も総称して「ファン ド」としている。
2	A	基金は毎年積み増しされているのか。	基金は、民間事業者や個人からの寄附金及び寄附金と同額の 県からの出捐金となっている。現在は、基金を取り崩すこと で積立額が減るような状況ではなく、積立額は順調に増えて いる。
3	A	多くの企業と連携して、事業数は増やしていけそう なのか。	基金の運用、事業の安定的な実施等の観点から、事業数をむ やみに増やすことは難しいが現在の事業は当面、継続したい と考えている。 また、えひめ子どもサポート事業で支援する団体数は、応募 が増えているということもあり、予算を拡充したことで、増 加傾向にある。
4	A	えひめ子どもサポート事業で支援した団体とは、ど のような団体か。	子育てをする母親を支援する団体や、子ども食堂を運営して いる団体等、様々なジャンルの業者に支援を行った。
5	A	休日子どもサポート事業は、ニーズに十分対応でき ているのか。 お金（補助金）が足りず、需要に対して供給が追いつ いていないといった声は市町からあるか。	休日子どもクラブ推進事業は、市町が実施する事業に補助金 を出すものであるため、ニーズへの対応状況に関しては市町 が把握しているが、市町からは補助金が足りないから事業が 拡大できないといった話は出ていない。 休日子どもカレッジ推進事業は、松山市内の大学で実施して いるため、松山市以外の子どもが利用するのはハードルが高 いかも知れないが、継続して開催する中で年々人気が高まっ ており、申し込みをいただいた方の一部には利用をお断りし ている状況である。
6	A	他の市町から相談・要望はあるのか。	予算計上時に、市町の要望を照会したうえで、予算化を検討 しており、今年度分については要望いただいた市町の事業は 全て予算化している。
7	A	寄附金を増やすための活動は別部署がやっているの か。	当課で担当している。以前は企業への訪問等も行っていた が、最近はコロナの影響で控えている。企業側から寄附をし たいとお声がけをいただくこともある。
8	A	企業が寄附をした場合、ステッカーや称号を与える のか。	感謝状を贈呈している。

令和4年度 愛媛県行政評価システム外部評価委員会 委員意見・質問等一覧

《長期計画》

基 本 政 策	輝く愛顔あふれる「えひめ」づくり
政 策	地域で取り組む子育て・子育て支援
施 策	安心して生み育てることができる環境づくり

予 算 施 策	地域全体での子育て支援体制の確立と充実
事 務 事 業	愛顔の子育て応援事業費
所管部局 課室名 (R4年度所管)	保健福祉部 子育て支援課

【分類】 A：事業内容・実施手法に関する御意見等 B：部局間連携に関する御意見等
C：成果指標・活動指標に関する御意見等 D：その他の御意見等

番号	分類	ヒアリング (R4. 8. 24) における 委員意見・質問等	部 局 回 答 (対 応)
1	C	成果指標は、合計特殊出生者数としているが、例えば、利用店舗数などの方が良いのではないかな。	現在、利用可能店舗数は450程度である。市町からの働きかけもあり、利用可能店舗数は順調に増加している。なお、紙おむつを扱う店舗では、ほぼすべての店舗で利用可能な状況となっており、新たに利用可能店舗数を増やしていかなければならない状況ではない。
2	A	第2子以降の出生世帯が自主的に申請するのか。	出生届を提出いただいた際に、市町の窓口で事業を御案内し、(出生届と)併せて申請いただいております。申請されない世帯はないと思われる。
3	A	予算の問題もあると思うが、第1子出生世帯にも支援できないか。	当該事業は市町にも財政負担があり、昨年度、各市町に第1子出生世帯への支援について意見照会したところ、財政負担が大きくなることに懸念が示されている。また、市町によっては、すでに独自に第1子出生世帯への支援を行っているところもある。
4	A	利用者から企業へのフィードバックみたいな工夫があっても良いのではないかなと思う。	

令和4年度 愛媛県行政評価システム外部評価委員会 委員意見・質問等一覧

《長期計画》

基 本 政 策	輝く愛顔あふれる「えひめ」づくり
政 策	地域で取り組む子育て・子育て支援
施 策	安心して生み育てることができる環境づくり

予 算 施 策	児童、ひとり親家庭、女性の保護と自立の促進
事 務 事 業	児童虐待防止医療ネットワーク事業費
所管部局 課室名（R4年度所管）	保健福祉部 子育て支援課

【分類】 A：事業内容・実施手法に関する御意見等 B：部局間連携に関する御意見等
C：成果指標・活動指標に関する御意見等 D：その他の御意見等

番号	分類	ヒアリング（R4.8.24）における 委員意見・質問等	部 局 回 答 （ 対 応 ）
1	C	成果指標B「児童虐待相談対応件数」について、計画よりも実績が大きく上回っているが、現段階は、潜在的に見えていないものを浮き上がらせるため、相談件数を増やしていく方が良いと考えているのか。	計画値は実績と大きく乖離しており、実態を踏まえて見直す必要があると考えているが、一般の方々に児童虐待への関心や認識を持ってもらい、重篤な状態になる前の段階で児童相談所や市町に相談してもらえるよう周知・啓発に取り組んでいるところである。
2	C	現在、児童相談所への相談件数の年間計画は300件であるが、実績では1,400件以上の年もある。計画値は見直すべきではないか。	実態を踏まえて見直す方向で検討する。
3	C	児童虐待の早期発見、早期対応という点で考えると、成果指標は「児童虐待対応研修を受講した病院数」に加え、「児童虐待対応研修を受講した医療従事者数」が重要ではないか。	研修受講者数について、病院からの報告では令和2年度は約90名、令和3年度は142名（Webの研修も含む）と増えており、医療機関においても研修の必要性を認識されていると考えている。
4	A	事業内容である（1）児童虐待コーディネートチームの設置、（2）地域の医療機関に対する相談支援（児童虐待対応に関する相談への助言等）、（3）児童虐待対応向上のための教育研修、（4）拠点病院における児童虐待対応体制の整備のうち、最も経費を要するのはどの事業か。	（3）児童虐待対応向上のための教育研修である。（4事業全て県医師会に委託している。）
5	A	対象141病院は県内の子どもが受診する可能性のある病院ということか。 全ての医療機関が研修を受講してもらうことが目標か。	病院、診療所の数であり、小児科だけでなく、整形外科なども含む医療機関全体の数としている。 理想としては御指摘のとおりであるが、まずは児童虐待を発見する機会の多い小児科、整形外科などの医療従事者に研修を受講してもらいたいと考えている。
6	C	成果指標は、児童虐待対応研修を受講した医療従事者数や、病院、診療所からの報告数といった方が良いのではと感じた。	

【分類】 A：事業内容・実施手法に関する御意見等 B：部局間連携に関する御意見等
C：成果指標・活動指標に関する御意見等 D：その他の御意見等

番号	分類	ヒアリング（R4. 8. 24）における 委員意見・質問等	部 局 回 答 （ 対 応 ）
7	A	病院からの虐待の報告が少ない原因は何か。 身体的虐待に至る前に報告が来ているという認識で よいのか。	県内の相談件数のうち約6割は心理的虐待であり、医療機関 を受診するような身体的虐待はそれほど多くないことに加 え、身体的虐待に至る前に発見する必要があることから、医 療機関を受診してからの報告数はなかなか増えていないの ではないかと考えている。 できるだけ早期に児童虐待を発見し対応できるよう児童相談 所などと連携していく、また、虐待に至る前に保護者へ支援 できればと考えている。
8	C	虐待を早期発見、早期対応するには、医療機関への 研修は必須にしたうえで、受講者数はどのくらいか といった指標でなくてはいけないのかなと思う。	
9	A	児童虐待対応コーディネーターチームの設置につい ては、早期対応できるよう是非DX化してほしい。	
10	C	成果指標に、医療機関からの相談件数（又は割合） を加えてほしい。	
11	A	ネットワークが機能し、児童虐待に迅速に対応する ためには、最低でも拠点病院にはホットラインを設 ける必要があるのではないかと。	

令和4年度 愛媛県行政評価システム外部評価委員会 委員意見・質問等一覧

《長期計画》

基 本 政 策	輝く愛顔あふれる「えひめ」づくり
政 策	地域で取り組む子育て・子育て支援
施 策	子ども・若者の健全育成

予 算 施 策	児童生徒の健全育成と教育相談の充実
事 務 事 業	不登校児童生徒等支援事業費
所管部局 課室名（R4年度所管）	教育委員会 義務教育課

【分類】 A：事業内容・実施手法に関する御意見等 B：部局間連携に関する御意見等
C：成果指標・活動指標に関する御意見等 D：その他の御意見等

番号	分類	ヒアリング（R4.8.23）における 委員意見・質問等	部 局 回 答 （ 対 応 ）
1	A	コーディネーターの配置や、校内サポートルームの設置について、どのような方法で実施しているのか。	コーディネーターは、県が、スクールソーシャルワーカーやスーパーバイザー（スクールソーシャルワーカーの指導員）の中から、指導経験の豊富な者を選定し、東・中・南予に1名ずつ配置している。 校内サポートルームは、希望する市が不登校生徒の出現率等を考慮した上で中学校を選定し、県が専任の教員を配置して、生徒への支援等を行っている。
2	A	校内サポートルームでは具体的にどのような対応を行っているのか。	専任教員（登校ナビゲーター）が個々の状況に応じた支援を行っている。従来は時間が空いた教員が別室登校の生徒への支援等を行っていることが多く、継続的、長期的な支援が難しい面があったが、専任教員の配置により、生徒が安心して相談できるようになるとともに、長期的な視野での支援等が可能となった。また、保護者との連携もスムーズにできるようになった。
3	A	校内サポートルームの専任教員は公募により採用をしているのか。	正規職員の中で、生徒指導等の経験豊富な教員を配置している。
4	A	市が直接運営を行い、民間団体等関わっていないのか。	基本的に市が運営するが、市や学校にとって初めての試みであるため、大学やフリースクール関係者、行政関係者及びサポートルーム設置校等による連絡協議会を立ち上げ、様々な情報共有を図ることにより、運営の充実を図っている。
5	A	校内サポートルームには、教員のOBではなく、現役の教員が加配されているのか。	現役もいれば、60歳以上の再任用の教員もいる。
6	A	ヤングケアラー等、家庭環境が原因の不登校の場合、専門人材による相談体制の充実も必要と考えられる。スクールカウンセラーは、別事業で成果指標を設定しているが、一方で、スクールソーシャルワーカーは成果指標等において、具体的な数値目標を設定していないようだが、積極的な増員の取組みや、今後の見通しはどうか。	スクールカウンセラーは市町の希望を基に、児童生徒数や学校規模、地域等を総合的に判断して県が配置することとなっている。スクールソーシャルワーカーは各市町がニーズに応じて配置することとなっており、県は、現時点で積極的な増員の取組は行っていない。
7	A	スクールソーシャルワーカーは市町の判断で設置を行うのか。	市町の判断である。市町の中には、予算の制約や人員不足のため、ニーズはあるが配置が進んでいないところもあると考えられる。

【分類】 A：事業内容・実施手法に関する御意見等 B：部局間連携に関する御意見等
C：成果指標・活動指標に関する御意見等 D：その他の御意見等

番号	分類	ヒアリング (R4. 8. 23) における 委員意見・質問等	部 局 回 答 (対 応)
8	A	事務事業管理シートの見直し方向性において、フリースクール連携推進事業費と統合とあるが、なぜ、統合するのか。取組み内容は変わらないのか。	フリースクール連携推進事業費としての取組内容は変わらないが、本県の不登校児童生徒への支援をより一体的に推進していくために、不登校児童生徒等支援事業費と統合している。
9	C	<予算施策に関する質問> 成果指標B「小・中学校（県立中等教育学校を含む）における1,000人当たりの不登校児童生徒数」について、不登校児童生徒数は増加し、達成率は減少しているが、成果動向を「横這い」としている理由は何か。	本県の不登校児童生徒数は増加しているものの、不登校の増加は全国的にも増加傾向にあることから「横ばい」としている。
10	A	不登校児童生徒に対し、経済的支援を行うことが不登校児童生徒の減少に有効だと考えた根拠は何か。また評価欄に「経済的支援の支給対象者及び対象経費には一定の要件があるため、支援金の申請自体が少なかった」とあるが、この点を踏まえて、今後どのように見直しを行うのか。	不登校児童生徒がいる経済的に困窮している世帯は、フリースクール等に通うための体験活動費や交通費を捻出することができないため、支援機関との繋がりが持てないケースが多く見受けられたことから、学校以外の教育の場にも目を向けるきっかけとなるよう経済的支援を行うこととした。国の委託事業のため要件を変えることは難しいが、周知方法を工夫することで、利用者を増やし多様で適切な教育機会の確保に努めたい。
11	D	不登校の理由は、経済的理由以外が多いのか。	経済的理由がどの程度影響しているかは不明だが、不登校の要因としては、無気力・不安が最も多い。
12	A	交通費や活動費を支援しているということだが、一人当たりの支援額はどのくらいか。	一月当たりの上限額が1万円で、年間12万円までとなっている。
13	A	支援金の利用者が少ないのは周知不足が原因か。	経済的支援は交通費等が対象となるが、公共の交通機関がないため、支援場所まで保護者が自家用車で送迎する場合など、支援を要していないケースがあると考えている。
14	A	校内サポートルームを利用した生徒の65%が好転したという効果が出ているが、令和5年度以降の事業の実施見通しはどうか。	現在は、国の委託金を活用しており、来年度も同様の委託金があれば活用したい。また、国の委託金がない場合も、人材の配置に関する経費は県が支援を行い、校内サポートルームの備品等については、必要に応じて、市町に負担を求める方向で検討している。
15	C	校内サポートルームを利用した生徒の65%が好転したという効果を把握できているのであれば、事務事業の成果指標としてはどうか。また、フリースクール連携推進事業費と統合しているのであれば、フリースクールの利用者数も成果指標としてはどうか。	

令和4年度 愛媛県行政評価システム外部評価委員会 委員意見・質問等一覧

＜長期計画＞

基 本 政 策	輝く愛顔あふれる「えひめ」づくり
政 策	スポーツ立県えひめの推進
施 策	スポーツを通じた豊かで活力ある地域づくり

予 算 施 策	スポーツを通じた地域づくりの推進
事 務 事 業	愛・野球博開催事業費
所管部局 課室名（R4年度所管）	観光スポーツ文化部 地域スポーツ課

【分類】 A：事業内容・実施手法に関する御意見等 B：部局間連携に関する御意見等
C：成果指標・活動指標に関する御意見等 D：その他の御意見等

番号	分類	ヒアリング（R4.8.23）における 委員意見・質問等	部 局 回 答 （ 対 応 ）
1	A	令和4年度で終了の事業であるが、令和5年度以降の実施見通しはどうか。	当初は、平成30年度から3年間の事業期間を予定していたが、オールスターゲームの誘致、開催やコロナ禍の影響により、事業期間を2年間延長した。今年度で本事業は終了するが、これまで培った人脈や経験とったレガシーを活用できるような新たな取組みを検討していきたい。
2	C	＜予算施策に関する質問＞ 成果指標B「武道館利用者数」はスポーツの利用者に特化した利用者数か。それともコンサート等の参加者も含むのか。	コンサート等の参加者を含む利用者数である。スポーツ利用のみの利用者数も把握している。
3	C	＜予算施策に関する意見＞ 成果指標A「愛媛スポーツ・レクリエーション祭参加人数」は、事務事業「生涯スポーツ推進事業費」の成果指標にもなっている。予算施策の成果指標は、個々の事業の上位目的の指標であることから、愛媛県スポーツ推進計画に掲げる「成人の週1回以上スポーツを行う県民の割合」の方が、予算施策の成果指標として適切ではないか。	「成人の週1回以上スポーツを行う県民の割合」は、毎年調査できておらず、スポーツ推進計画見直しの際に、サンプル調査を行っている。 今年度実施の県民意識調査で最新の数値が判明する。
4	A	県民意識調査とはどのようなものか。	調査はスポーツ実施率などを区分ごとに分けて把握するもので、スポーツ推進計画の見直しのタイミングで実施し、調査結果は公表している。なお、調査結果は令和5年度から5年間の次期計画に反映させる。
5	C	＜予算施策に関する意見＞ 愛媛県スポーツ推進計画に掲げる「成人の週1回以上スポーツを行う県民の割合」について、企画振興部の実施している県民世論調査の項目とするなどして、毎年調査を行ってはどうか。	
6	C	独自性のある取組みで評価できる一方で、成果指標、活動指標の実績は伸び悩んでいるが、その原因は何か。また、成果動向を「成果順調である」と評価した理由は何か。	インターネットの活用にも取り組んだが、集客型の事業がコロナ禍で実施できず、指標の実績にも影響を与えたと考えている。一方で、野球ラボという測定会等を開催し、参加した学校が甲子園に出場するなど、野球の競技力向上に寄与した。野球人口が増えない理由は、今一度検証していきたい。
7	B	野球人口の減少対策は継続してほしい。野球人口の拡大には、野球を習っている子どもたちが長く続けられるようにする取組みや、指導者の教育も必要である。	本事業は県民に野球の魅力を広く知ってもらうための事業であり、野球人口の拡大に繋がることも期待している。また、競技力向上や指導者育成も重要な視点であり、競技スポーツ課や教育委員会にも引き継いでいきたい。
8	A	行政の公平性の観点から、野球に特化した取組みを行う理由をどのように整理しているのか。	坊っちゃんスタジアムという野球場があったことや、平成29年度のえひめ国体後に関係団体から明確な要望があったことをきっかけに取り組んできた。今後、他のスポーツでも、機運の向上により、同様の取組みを行う可能性もあると考えている。

【分類】 A：事業内容・実施手法に関する御意見等 B：部局間連携に関する御意見等
C：成果指標・活動指標に関する御意見等 D：その他の御意見等

番号	分類	ヒアリング（R4. 8. 23）における 委員意見・質問等	部 局 回 答 （ 対 応 ）
9	A	若者の県外流出を防ぐ観点から、スポーツは重要なキーワードであると考えており、県外出身者から見ると、愛媛県民の野球に対する熱量は大きいので、活用を図ってほしい。 県外から愛媛の高校の野球部に来ている生徒も多くいるが、県内在住者に対しても子どもから大人まで野球に親しめる環境づくりを進めてほしい。	
10	A	オールスターゲームの機運醸成として実施した高校生記者による20市町盛り上げ施策の取材及び新聞掲載は、人材育成の面からも評価できるので、愛媛らしい取り組みとして継続してほしい。	
11	A	本事業のレガシーとは、具体的にどういったものかと考えているのか。	競技力向上、野球人口拡大に繋がるような取り組みを進めていくことと考えている。
12	A	女子野球への支援は行っているのか。	少年女子野球スタートアップ支援等を実施した。
13	A	県庁本館のドームの屋根を野球ボール風に装飾していたが、どういう経緯で行ったのか。	プロポーザルの事業者からの提案で、オールスターゲームのPRのため、シティドレッシングとして実施したものである。
14	A	坊っちゃんスタジアムの飲食ブースの充実を図ってどうか。	坊っちゃんスタジアムの管轄は松山市であり、オールスターゲームの実績も踏まえつつ県と市が一緒になって考えていきたい。

令和4年度 愛媛県行政評価システム外部評価委員会 委員意見・質問等一覧

＜長期計画＞

基 本 政 策	輝く愛顔あふれる「えひめ」づくり
政 策	スポーツ立県えひめの推進
施 策	スポーツを通じた豊かで活力ある地域づくり

予 算 施 策	スポーツを通じた地域づくりの推進
事 務 事 業	生涯スポーツ推進事業費
所管部局 課室名（R4年度所管）	観光スポーツ文化部 地域スポーツ課

【分類】 A：事業内容・実施手法に関する御意見等 B：部局間連携に関する御意見等
C：成果指標・活動指標に関する御意見等 D：その他の御意見等

番号	分類	ヒアリング（R4.8.23）における 委員意見・質問等	部 局 回 答 （ 対 応 ）
1	A	事業実施に当たり、委託している団体があれば教えてほしい。	本事業のうち、「ウォーキング実践指導・裾野拡大事業」及び「オンラインを活用したスポーツ機会提供事業」は、プロポーザルで委託事業者を決定しており、令和3年度は両事業ともマラソン大会の運営やランニング雑誌の発行等の事業を行っている本社が東京の事業者へ委託した。 令和4年度も「オンラインを活用したスポーツ機会提供事業」は同じ事業者へ委託している。
2	A	令和4年度で終了の事業であるが、令和5年度以降の実施見通しはどうか。	スポーツ推進計画の見直しを行う中で、県民意識調査で実態を把握し、その結果を踏まえ、ウォーキングやオンラインを活用した事業内容について検討していきたい。今年度実施した県民意識調査で目標を達成できていない場合は、達成に向けた事業展開を進めていく所存である。
3	A	スポーツ・レクリエーション祭のような県民が運動やスポーツに親しむ場づくりを県が支援する必要性は理解するが、ウォーキングは市町単位でも取り組んでおり、県がウォーキングに特化した取り組みを行う必要があるといえるのか。	

令和4年度 愛媛県行政評価システム外部評価委員会 委員意見・質問等一覧

《長期計画》

基 本 政 策	輝く愛顔あふれる「えひめ」づくり
政 策	スポーツ立県えひめの推進
施 策	競技スポーツの振興

予 算 施 策	アスリートの発掘育成と競技力向上
事 務 事 業	えひめ愛顔のジュニアアスリート発掘事業費
所管部局 課室名 (R4年度所管)	観光スポーツ文化部 競技スポーツ課

【分類】 A：事業内容・実施手法に関する御意見等 B：部局間連携に関する御意見等
C：成果指標・活動指標に関する御意見等 D：その他の御意見等

番号	分類	ヒアリング (R4.8.23) における 委員意見・質問等	部 局 回 答 (対 応)
1	C	＜予算施策に関する質問＞ 成果指標A「国民体育大会の天皇杯順位」について、目標値が「10位台」である理由は何か。1ヶ台の順位は、よりすばらしい成果であるので、20位以内という表記にする方が適切ではないか。	競技得点の高い都道府県が12・13団体程度あり、そこに食い込むのは難しいと考えている。また、20位台は、混戦状態であり、そこから一歩抜け出ることを目標としているため、10位台としている。
2	C	＜予算施策に関する質問＞ 成果指標B「トップアスリート（パラトップアスリートを含む）に対する支援金・補助金の交付人数」について、世界を目指すトップアスリートや国際大会で活躍できる選手の育成、支援という施策目標の主旨を踏まえると、国際大会の出場者数等の方が適切ではないか。	国際大会の出場者数全体を正確に把握することが難しいことから、指標を国際大会に出場した人数が確実に把握できる支援金・補助金の交付人数としている。
3	A	四国各県も同様の取組みを行っているのか。	四国では、徳島県以外が実施している。プログラム数は本県は月に2、3回実施しており、他県に比べて多い。また、対象学年は、本県は小学5年生から中学3年生までで、小学生のみを対象としている県もあることから、四国各県と比較してジュニアアスリートの発掘に力を入れていると考えている。
4	A	本事業は平成27年度から実施しているが、成果として、本事業を活用した者で、日本代表になった者はどのくらいいるのか。	本事業を活用した者のうち、最高学年が大学3年生であり、全世代を対象にした国際大会において成果が出るのは、もう少し先であると考えている。なお、令和3年度は、世代別の国際大会において、ボートのコースタルローイングで世界2位、ライフル射撃団体で世界3位となった者がいたほか、ボートのU-19の日本代表選手や、過年度にウエイトリフティングの世代別の強化指定選手がおり、世代別の国際大会では成果が出てきている。
5	B	高校との連携はどうか。	本事業を活用し、高評価であったジュニアアスリートに対し、競技団体のクラブチームや強化事業を紹介しており、競技団体の関係者には高校の教員も多くいることから、高校との連携が図られている。また、進路指導等において活用してもらえよう、ジュニアアスリートの在籍する中学校へ競技団体の評価等の情報提供を行っている。
6	A	事業内容を知らない県民も多いので、事業の継続のためにも、PRが必要である。また、保護者の方が熱意をもって取り組まれているとともに、職員も児童生徒に寄り添った支援を行っており、素晴らしい事業であると思う。 なお、結果的に国際大会への出場等の成果が出せなかったとしても、児童生徒の人生に関わっているという危機感を持って、フォローを行うべきであると思う。	

【分類】 A：事業内容・実施手法に関する御意見等 B：部局間連携に関する御意見等
C：成果指標・活動指標に関する御意見等 D：その他の御意見等

番号	分類	ヒアリング（R4. 8. 23）における 委員意見・質問等	部 局 回 答 （ 対 応 ）
7	A	えひめハイパフォーマンス測定室について、利用状況はどうか。誰が測定するのか。さらに活用を図ることはできるのか。	国体の選手や愛顔のジュニアアスリート等に対し、令和3年度は延べ140人の測定を実施した。測定には時間がかかり、1人当たり、2・3時間から半日程度を要するので、土日の利用が中心となっている。常駐している職員（スポーツ専門員）が測定員となっている。
8	A	遠方からの参加者への交通費等の支援はあるのか。	県内全域に参加者がいるが、施設や指導者の関係で中予の会場を中心に実施しており、交通費は自己負担となっている。小・中学生が対象のため、保護者に送り迎え可能か確認のうえ選考している。
9	A	遠方の参加者に対し、リモートの指導は可能か。	令和3年度はコロナ禍で対面実施が難しいため、通算4カ月程度オンライン配信で実施した。育成プログラムは問題なく実施できたが、競技適性の判定は、オンラインでは難しかった。このため、リモート開催は、あくまでコロナ禍等でやむを得ない場合の対応に限られると考えている。
10	A	競技の適性判定で当該児童生徒が取り組んでいる競技と別の競技が高評価となった場合、別競技について支援を行っていくのか。	競技の適性判定で高評価を受けた場合、県外の強豪チームやトップレベルのコーチへ指導を受けられる機会を提供するとともに、県内の競技団体を紹介している。
11	A	競技の適性判定で当該児童生徒が取り組んでいる競技と別の競技が高評価となった場合、当該児童生徒は、抵抗なく転向しているのか。	約4割の児童生徒が競技を転向している。また、当該児童生徒が既に取り組んでいる競技に対する支援も行っている。

令和4年度 愛媛県行政評価システム外部評価委員会 委員意見・質問等一覧

《長期計画》

基 本 政 策	輝く愛顔あふれる「えひめ」づくり
政 策	スポーツ立県えひめの推進
施 策	競技スポーツの振興

予 算 施 策	アスリートの発掘育成と競技力向上
事 務 事 業	競技力向上対策本部事業費
所管部局 課室名 (R4年度所管)	観光スポーツ文化部 競技スポーツ課

【分類】 A：事業内容・実施手法に関する御意見等 B：部局間連携に関する御意見等
C：成果指標・活動指標に関する御意見等 D：その他の御意見等

番号	分類	ヒアリング (R4.8.23) における 委員意見・質問等	部 局 回 答 (対 応)
1	A	スポーツ推進基金とは、どのようなものか。	県がえひめ国体の開催及び開催準備等のために創設した基金である。
2	A	競技団体41団体へ補助を行っているが、支出額の基準はどうか。	国体の正式競技の競技団体である41団体が実施する強化事業に対して支援を行っている。補助額は一律ではなく、エントリー人数や過去の実績、強化計画を踏まえるとともに、支援により今後好成績が見込まれる場合、重点的な配分もしている。
3	A	えひめ国体により、競技団体41団体への補助額は増額したのか。	えひめ国体に近づくにつれて増額し、開催前年度（平成28年度）がピークであったが、現在は減額されている。ただし、スポーツ立県の実現を目指しているため、減額率は低く、現在も他県に比べてそんな色ない金額となっている。

令和4年度 愛媛県行政評価システム外部評価委員会 委員意見・質問等一覧

＜長期計画＞

基 本 政 策	輝く愛顔あふれる「えひめ」づくり
政 策	スポーツ立県えひめの推進
施 策	競技スポーツの振興

予 算 施 策	アスリートの発掘育成と競技力向上
事 務 事 業	スポーツ医科学サポート事業費
所管部局 課室名（R4年度所管）	観光スポーツ文化部 競技スポーツ課

【分類】 A：事業内容・実施手法に関する御意見等 B：部局間連携に関する御意見等
C：成果指標・活動指標に関する御意見等 D：その他の御意見等

番号	分類	ヒアリング（R4.8.23）における 委員意見・質問等	部 局 回 答 （ 対 応 ）
1	A	スポーツドクターとはどのような資格を有する者で、どのような団体に派遣されるのか。また、各団体からの派遣依頼と（需要）と予算配分（供給）のバランスはどうか。	スポーツドクターの資格を有する者（医師）である。派遣先については、県スポーツ協会のスポーツ医科学委員会が競技団体を中心に派遣している。需要と供給のバランスについては、コロナ前は若干需要の方が多かったが、昨年度はコロナ禍の影響により3割程度需要が減っている。
2	A	団体からの依頼（要請）を受けてスポーツドクター等の派遣を行うのか。また、中四国地区においても本件と同様の事業（支援）を行っているか。	県スポーツ協会を通じ各競技団体に調査を実施のうえ、スポーツドクター等の派遣を行っている。他県の状況については承知していないが、本県のように組織的にやっているところは少ないと思われる。
3	C	国民体育大会天皇杯の順位を、予算施策・事務事業の成果指標として設定しているが、成果の直接的な効果を示す成果指標に変更すべきではないか。	
4	C	目的と手段の関係で考えると事務事業の成果指標（国民体育大会の天皇杯順位）は見直すべきではないか。また、その際には利用者側の視点を入れてはどうか。	
5	C	スポーツ関連予算について、アスリート系の支援は手厚く、中間団体への支援は見えるものの、末端の選手への支援が見えてこない。 国民体育大会天皇杯の順位だけでなく、末端の選手へ支援がいきわたるような成果指標を設定すべきではないか。	
6	A	選手のけがの問題はトップアスリートだけに限らない。本事業が公的関与であることを考慮し、末端の選手等まで支援の対象を広げて良いのではないか。	

令和4年度 愛媛県行政評価システム外部評価委員会 委員意見・質問等一覧

＜長期計画＞

基 本 政 策	輝く愛顔あふれる「えひめ」づくり
政 策	スポーツ立県えひめの推進
施 策	競技スポーツの振興

予 算 施 策	アスリートの発掘育成と競技力向上
事 務 事 業	トップアスリート強化支援事業費
所管部局 課室名 (R4年度所管)	観光スポーツ文化部 競技スポーツ課

【分類】 A：事業内容・実施手法に関する御意見等 B：部局間連携に関する御意見等
C：成果指標・活動指標に関する御意見等 D：その他の御意見等

番号	分類	ヒアリング (R4. 8. 23) における 委 員 意 見・質 問 等	部 局 回 答 (対 応)
1	A	支援対象（者）について、競技力向上対策事業費との区分はどうなっているか。	トップアスリート強化支援事業は、日本代表レベルの選手への支援、競技力向上対策事業費は、競技団体が実施する国内遠征等への支援を行うものである。
2	A	トップアスリート（支給対象）は、どのように確認しているか。	選手からの申請時点で資格要件に該当しているか確認を行っている。
3	A	毎年申請をしてもらっているのか。	毎年、本人（未成年者は保護者）に申請してもらい事業を実施している。
4	A	事業予算枠（70名）は埋まるのか。	コロナ禍で令和2、3年度はかなり少なく枠は埋まっていない。しかしながら、令和元年度は95名であったことを考慮すると、コロナ禍で、大会、合宿が減ったことなどが原因と考えられる。
5	A	支給対象者について、その後のフォローアップは行っているか。	フォローアップまでは行っていないが、支給対象者について、翌年も同様の申請があれば支給している。
6	A	過去に支給を受けた方が改めて申請することもあるのか。また、強化支援金を支給する回数（上限）はどうか。	ある。 原則、国内合宿、国外合宿1回/年ずつに対し支給している。ただし、オリンピックレベルの選手には審査の上、上限3回/年としている。
7	A	毎年、申請している方はどのくらいいるのか。	具体的な数字は不明であるが、継続している方が多い。なお、社会人は継続率が高いものの、高校生は少ない。
8	A	一定レベルの選手は県の方でも分かるはずであり、対象者本人からの申請に基づかなくても支援は行えるのではないかと。	支援のアナウンスは選手の状況を把握している41競技団体にも直接呼びかけるなど、漏れがないようにしている。また、不要な方もいるので、支援が必要な方に申請を行ってもらうようにしている。

令和4年度 愛媛県行政評価システム外部評価委員会 委員意見・質問等一覧

＜長期計画＞

基 本 政 策	輝く愛顔あふれる「えひめ」づくり
政 策	スポーツ立県えひめの推進
施 策	競技スポーツの振興

予 算 施 策	アスリートの発掘育成と競技力向上
事 務 事 業	国民体育大会費
所管部局 課室名 (R4年度所管)	観光スポーツ文化部 競技スポーツ課

【分類】 A：事業内容・実施手法に関する御意見等 B：部局間連携に関する御意見等
C：成果指標・活動指標に関する御意見等 D：その他の御意見等

番号	分類	ヒアリング (R4.8.23) における 委員意見・質問等	部 局 回 答 (対 応)
1	A	当該事業は、県スポーツ協会への団体補助金という認識でよいのか。	御指摘のとおり。
2	A	・県スポーツ協会は何名いるのか。 ・リーダーの主な役割は何か。 ・リーダーはどのような経験、スキルを有している方なのか。 ・リーダーはプロパーの方か。 ・1名はスポーツ医科学の学士であるが、もう1名は実務経験者、又はスポーツ選手ということか。 ・何か実務経験を有する方か。	・専務理事を含む、正規職員3名、臨時職員2名、(専門的知識を有する)リーダー2名。なお、当事業では、専務理事、(専門的知識を有する)リーダー2名の合計3名が対象になる。 ・スポーツ医科学の推進に関すること、有能選手、指導者の雇用促進に関すること、地域スポーツの推進に関することについてお願いしている。 ・スポーツ医科学関係の大学を出られ国体にも同行された方が1名、もう1名は業務内容を熟知されており、スポーツ協会の中心的役割を担っている方である。 ・プロパーではない。 ・スポーツ選手ではない。 ・長年、事務の仕事に携わっている方である。
3	A	これらの事業は、団体補助以外にも事業補助といった形でスポーツ協会に事業を担っていただき、(補助金は)協会の活動費にも充てられている認識でよいのか。	国民体育大会費、指導者派遣事業についてはスポーツ協会への補助である。
4	A	常務理事とはどのような方か。 また、専務理事はもともと設置されていたポストか。	常務理事(令和3年6月から専務理事へ役職変更)は、県職員OBでえひめ国体に携わっており、国体、競技力向上に関して知識を有している。 えひめ国体の時は、専務理事、常務理事の2人体制であったものを、えひめ国体以降、1人体制に変更している。
5	A	常務理事設置経費は人件費か。	御指摘のとおり。
6	A	経費が適正かどうかは、対象者3名が常勤・非常勤でも違って来るが、どちらなのか。	常勤である。
7	A	補助額については、文化系と体育系でも差があるのではないかと考えるが、県民目線で必要かどうかを見ていく。	
8	D	小中高校の現場でやりたいスポーツがやれているのか、現場の方までお金がうまく回っているのか。	

【分類】 A：事業内容・実施手法に関する御意見等 B：部局間連携に関する御意見等
C：成果指標・活動指標に関する御意見等 D：その他の御意見等

番号	分類	ヒアリング（R4. 8. 23）における 委員意見・質問等	部 局 回 答 （ 対 応 ）
9	B	部活動が地域移行していく中で、競技スポーツについて県としてどのような支援を進めていくのか。県としてのスキームはできているか。	部活動の地域移行については、教育委員会が主導して進めている。これからは、地域の受け皿としての連携も必要になってくると考える。
10	B	各委員の意見を踏まえると、行政の縦割り（知事部局、教育委員会など）ではない予算（基金）執行の方法もあるのではないかと考える。	

令和4年度 愛媛県行政評価システム外部評価委員会 委員意見・質問等一覧

＜長期計画＞

基 本 政 策	推進姿勢
政 策	新たな政策と戦略の“創造”
施 策	独自性の高い“愛媛発”の新たな政策の創造

予 算 施 策	新しい政策立案・推進体制の整備
事 務 事 業	デジタルトランスフォーメーション推進事業費
所管部局 課室名（R4年度所管）	企画振興部 デジタルシフト推進課

【分類】 A：事業内容・実施手法に関する御意見等 B：部局間連携に関する御意見等
C：成果指標・活動指標に関する御意見等 D：その他の御意見等

番号	分類	ヒアリング（R4.8.24）における 委員意見・質問等	部 局 回 答 （ 対 応 ）
1	A	本事業は令和5年度に終了するのか、令和5年度以降も継続するの予定はあるのか。	本事業は、令和5年度までの3カ年で進めているデジタル総合戦略に沿った事業である。今後については、議会や関係者、県民の意見や今後の施策等も踏まえて議論していく。
2	A	外部の人材を活用しているが、行政の仕事の進め方も理解しているのか。	CDO補佐官は、もともとデジタルコーディネーターの行政効率化の部門で就任していただいていた人物で、行政の仕事の中でどういったことがDX化できるかをじっくりみていただいている。
3	C	具体的に県のどういう業務が効率化したのかを指標化できないか。	どのような対応ができるか、今後検討したい。
4	B	県庁内で、DXに興味がある人や知識がある人にピンポイントに勉強会等を行い、お互いを高め、政策立案に生かすというような、興味・知識のある人を支援するような仕組みがあってもいいのではないのか。	DX推進をやりたい、仕事の仕組みを変えたいといった職員は出てきており、課・部を越えてチームを作り問題解決に取り組むことができる仕組みを構築している。
5	A	DXを進めることによって、県民がどんな恩恵を受けるかを自分事として考えてみるのが重要であると思う。 研修で知識を習得し、現場にどれくらいその知識が落とし込まれているかわかるような事例があれば教えていただきたい。	スマート行政推進課において、申請手続きのデジタル化を進めているところであり、行政の効率化に向けた仕組みを作っているところ。
6	A	DXには、システムを含めて莫大な予算がかかってくる。今後の予算の計画も含まれた上でデジタル総合戦略は進んでいるのか。	国は、デジタル田園都市国家構想として、デジタルで地域を活性化していくことに力を入れていく方針であり、そのための財政的な支援をしていくと言っているため、今後も良い提案をして、国の支援を受けるようにしていきたい。 また、デジタル技術を活用した課題解決や新たな価値創出を図るための県独自の基金も設置しているところ。
7	A	何年後にどういったことができるようになるか、県民に公表できるものがあるのか。	目標設定等を含めて、今後検討したい。
8	C	研修を受けても具体的にやってみないとわからないと思うため、今後は、研修を受けて具体的にどのような取り組みをしたかが指標になるのではないのか。	
9	A	人によっては（高齢者等）、仕事でデジタルにあまり触れてこなかった人もいて、疎いこともある。時代の流れを見据えたかたちで進めるのがよいと思う。	デジタルコーディネーターからアドバイスをもらったり、協力してくれる企業とも議論しながらDXを進めていきたい。 また、スマホに慣れていない高齢者のために、郵便局に相談窓口を設置したり、各市町でスマホ教室を開催したりしている。

令和4年度 愛媛県行政評価システム外部評価委員会 委員意見・質問等一覧

＜長期計画＞

基 本 政 策	推進姿勢
政 策	新たな政策と戦略の“創造”
施 策	独自性の高い“愛媛発”の新たな政策の創造

予 算 施 策	競争力のある産地づくり
事 務 事 業	家畜生体情報高度利用技術確立事業費
所管部局 課室名（R4年度所管）	農林水産部 畜産課

【分類】 A：事業内容・実施手法に関する御意見等 B：部局間連携に関する御意見等
C：成果指標・活動指標に関する御意見等 D：その他の御意見等

番号	分類	ヒアリング（R4.8.23）における 委員意見・質問等	部 局 回 答 （ 対 応 ）
1	A	本事業は生産の能率化や省力化に寄与する事業と考えられるが、感染症等のリスク管理に活用することはできないのか。	家畜の行動パターンの把握により、病気の兆候の早期発見・早期治療に繋げることができるのではないかと考えている。
2	A	感染症等の疾病管理に関する研究成果やノウハウについて、国や他の自治体等と情報連携を行う可能性はあるのか。	鳥インフルエンザや豚熱等の甚大な被害を引き起こす家畜伝染病は、国の指針に基づき、全国一律の対応が定められており、感染症の兆候を見つけた際は、まず重大な伝染病ではないことを否定してから、その原因を調べることとなっている。 また、省力化等、生産性の向上については、他県とは競合関係にある。
3	A	四国各県と比べて、力を入れて取り組んでいるのか。	四国各県の設置している試験場において、同様の研究事例はないと聞いており、先行して取り組んでいると考えている。
4	C	活動指標「調査項目の数」と成果指標「効果を認めた項目」について、5項目ずつあるが、具体的にどのような調査を行い、効果が認められたのか。	令和2年度は、①牛の行動把握と②牛繁殖成績について調査を行い、①について、乳牛の発情の行動パターンの把握に繋がったことで、生産性の向上について効果が認められた。
5	C	指標に定める調査項目は、毎年度設定して計画的に実施しているのか。	毎年度調査項目を設定し、最終年度である令和5年度には、5項目全てについて、何かしらの効果が認められた状態にしたいと考えている。
6	A	本事業はシステム開発を行うものか。	システム開発までは行わず、既存のシステムを使ってデータを取得し、行動パターンの分析・解析を行っている。
7	A	本事業により知的財産は発生するのか。	知的財産までは発生しないと考えている。
8	A	本事業において生産者との連携を図っているのか。	生産者との連携は、本事業の次の段階で、得た成果を活用して、生産者へアドバイスを行っていきたいと考えている。
9	A	本事業を予算施策「競争力のある産地づくり」の構成事業に位置付けている理由は何か。本事業は、施策の成果指標「認定農業者数」及び「戦略品種（紅まどんな、甘平、カラ）の生産量」と関係があるといえるのか。	畜産業の振興には、省力化が重要であると考えており、本事業で開発した技術を活用して省力化を図ることで、畜産の魅力が伝わり、担い手ひいては認定農業者の増加に繋がるものと考えていることから、予算施策「競争力のある産地づくり」の構成事業に位置付けている。
10	A	技術の実装化について、どのように想定しているか。	計画では、令和5年までに技術を確立して支援内容についてコンテンツを作成し、畜産研究センター、家畜保健衛生所及び畜産農家をネットワークで繋ぐことにより、技術支援に取り組みたいと考えている。